

奈良県西和医療センター総長の斎藤能彦です。奈良県西和医療センターは研修指定病院ですが、その良さは、毎年春になれば、2年間研修した先生が巣立って行く、そして若い研修医の先生が入って来られる、ということです。若い先生が毎年来られることが、どれほど病院を活性化していることでしょう！皆様、奈良県西和医療センターでの研修に興味を持ってくださいまして、心より御礼申し上げます。

さて、奈良県立病院機構の理念は、「“医の心と技”を最高レベルに磨き、県民の健康を生涯にわたって支え続けます」です。“医の心と技”は、両方とも同等に重要です。皆様が医師を志した時、そして、医師として働き始めた時にも、患者さんのために働きたい、

病める人に寄り添いたい、患者さんを断るなんてあり得ない、と自然に思っていたはずです。それこそまさに“医の心”です。ところが、医師になり時間が経過するとともに、また、ぞんざいな医師の中で働いていると、その医の心を忘れてしまうことがあるのです。奈良県西和医療センターの理念は、「患者さんを家族のように愛する」ですが、このような環境に身をおくことによって、知らず知らずのうちに“医の心”が体に染み付き、患者さんから信頼される医師に育って行くのです。三つ子の魂百までです。

もう一つの“医の技”を最高レベルに磨くことも極めて重要です。“医の技”を最高レベルに到達させることは一朝一夕には不可能です。しかし、奈良県西和医療センターでは、最高レベルの“医の技”を持っている先輩医師がたくさん在籍しております。彼らの“医の技”を間近に見て、体得してください。

人が人間として成長していく上で、読書は大変重要なものです。読書に多読と精読があるように、医師として成長する為にも、多くの症例に接することと、症例を深く科学することの両方が必須です。若い時に触れたことのなかった疾病は、上手に対処することが困難なものです。若い時は、貪欲に多くの症例に触れることが重要です。しかし、ただ多くの症例に触れるだけでは、医師としての科学的な素養を醸成することは困難です。時には、症例を深く掘り下げる必要があります。その分野の最新知識を勉強し、目の前の症例に還元すること、そしてそれを、学会で発表し文字として残すことが重要です。このような精読を、全ての症例で実践することは時間的に不可能ですが、時には大事なことです。

もう一点、2024年から実施される「医師の働き方改革」が実施されますが、この新しい制度の中でも有意義で実りある研修期間を過ごして欲しいと思います。英語で研修医のことをレジデントと言いますが、レジデントとは、住民の意味です。昔は、病院に住んでいる人ということで、研修医がレジデントと呼ばれていたのです。現代では、このような考えは成り立ちませんが、逆に先生方自身の、心構えがより重要になります。1日はどのような人にも24時間です。この24時間をどの様に使うかで将来が決まります。勤務時間を上手に有効に使い、さらに、残りの時間の使い方をご自身でよく考え、2度と戻らない研修期間を有意義に過ごして下さい。最後に私の師である井村裕夫先生から教えていただいた、エマーソンの詩の一節「目標ある人生に幸いあれ！」を贈ります。



奈良県西和医療センター
総長 斎藤 能彦

医学生の君へ(教育は奈良県西和医療センターの礎)

奈良県西和医療センターでは、最高レベルの医師臨床研修を目指して、プログラムを進化させてきました。そのレベルは、ここで研修し大学病院などの様々な専門医プログラムに羽ばたいて行った卒業生たちの実力を見ていただければ、理解していただけると思います。

奈良県西和医療センターは、基幹型臨床研修病院ですが、同時に地域に密着した、高度急性期・重症急性期医療を担う地域医療支援病院でもあります。奈良県西部に暮らす県民 30 万人の命と健康を守っています。最後の砦といわれる大学病院とは異なる、最前

線の医療機関ですので、まだ診断がついていない、しかも重篤な患者さんの最初の診療を担うことが使命です。そのためプライマリ・ケア、救急医療、総合診療を2年間の重要な研修テーマとした上で、専門的な診療科での研修を展開するようにしています。ローテートは、1年目で必修診療科をまわりますが、まずは内科での研修から開始します。内科での研修を通じて、プライマリ・ケアでの実践を行い、医師としてのプロフェッショナル

リズムを学び、自らの医師としての姿勢を確立していただきます。そして救急科、麻酔科、小児科、外科などの必修診療科での研修を通じて、あらゆるジャンルに精通する知識と技術を培ってゆきます。2年目の研修では将来を見つめて、内科の消化器内視鏡手術や循環器のカテーテル手術のチームに入って学ぶだけでなく、より専門的な外科系診療科のがんの手術や様々な鏡視下手術、脳神経外科手術、心臓血管外科手術を学ぶことができます。救急医療においては、研修医1人あたりのファーストタッチ件数は2年間で 500 ～ 600 例にもなるため、実践での豊富な経験に裏打ちされた知識と技術が身に付きます。このような最前線での医療を担うために、研修医には様々な教育の場を提供しています。最新の正しい知識と、最前線での実践経験とを統合して、医師としての技術「医の技」を学んでもらえたらと思います。研修医として過ごす 2 年間は、後の医師人生における「医の心」を形成する最も重要な時期です。先輩の真摯な診療態度や患者さんに対する思いやりのあるコミュニケーションを間近でみることによって、医師としてのプロフェッショナルリズムを醸成してもらえると信じています。現在、奈良県西和医療センターは、移転・新築に向けて 2 次医療圏の中心的な基幹病院としての役割、すなわち救急医療を含む高度・重症急性期医療、災害医療や新興感染症パンデミックに対する医療などに焦点をしばって、病院機能を充実させるとともに、職員が一丸となって、地域住民の命と健康を守るために努力を重ねています。

このような最前線に立つ市中の一般病院での医療活動を若い研修医時代に経験しておくことは、どのような専門医コースに進むにせよ、必ず医師としてのしっかりした土台になります。

研修医の皆さんの成長があってこそ病院も成長し、地域になくてはならない愛される医療機関になってゆけると考えて、教育に取り組んでいます。皆さんと共に学べる日を待ち望んでいます。



奈良県西和医療センター
院長 土肥 直文

病院概要

1 診療実績(2024 年度)

入院患者数

延入院患者数	79,277 名
新規入院患者数	6,930 名(19.0 名/日)
平均在院日数	10.5 日
病床稼働率	84.1%
緊急入院患者数	3,759 名
延外来患者数	143,163 名(589.1 名/日)
延救急車搬入件数	4,209 件(11.5 件/日)
時間外患者数	5,415 名(14.8 人/日)
心肺停止状態搬送患者数	83 人/年
病理解剖	1 例
臨床病理検討会(CPC)	3 件

集学的循環器病治療センター

心臓カテーテル検査	588 件(診断は 174 件)
冠動脈カテーテル治療	288 件
カテーテルアブレーション	137 件
末梢血管の血管内治療	86 件
ペースメーカー、植込み型	
除細動器手術	73 件
心臓血管外科手術件数	97 件
脳卒中手術件数	163 件

総手術件数

外科手術件数	437 件
腹腔鏡下手術	366 件
単孔式	24 件
脳神経外科	273 件

2 診療体制

標榜診療科

総合内科、腎臓内科、循環器内科、消化器内科、消化器・糖尿病内科、呼吸器内科、脳神経内科、感染症内科、腫瘍内科、心療内科、糖尿病・内分泌内科、小児科、外科・消化器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、乳腺外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、呼吸器外科、病理診断科、集中治療科

病床数 300 床 (ICU/CCU 6床・HCU 4 床)

診療科別医師数()内は非常勤

令和 7 年 4 月 1 日現在

診療科	員数	診療科	員数
総合内科	4 (2)	心臓血管外科	(1)
消化器内科	2	呼吸器外科	(1)
消化器・糖尿病内科	5	口腔外科	(2)
糖尿病・内分泌内科	(3)	形成外科	2 (1)
腎臓内科	7	皮膚科	2 (4)
循環器内科	14 (2)	泌尿器科	4 (2)
呼吸器内科	4 (2)	産婦人科	2
心療内科	(2)	眼科	(7)
脳神経内科	(4)	耳鼻咽喉科	2
小児科	5 (1)	リハビリテーション科	1 (2)
乳腺外科	2	放射線科	4 (7)
外科・消化器外科	6	麻酔科	4 (1)
整形外科	5 (6)	集中治療科	2 (2)
脳神経外科	2 (4)	病理診断科	1 (2)



2024 年度採用研修医

奈良県西和臨床研修病院群



奈良県西和医療センター



奈良県総合医療センター



奈良県立医科大学附属病院



ハートランドしぎさん
(信貴山病院)



国保中央病院



南奈良総合医療センター



郡山保健所



奈良県総合リハビリテーションセンター



神奈川県三浦市立病院



上野病院



やわらぎクリニック



大阪暁明館病院



2025 年度採用研修医

奈良県立病院機構理念

“ 医の心と技 ” を最高レベルに磨き、
県民の健康を生涯にわたって支え続けます

奈良県西和医療センター理念

- ・ 患者さんを家族のように愛する
- ・ いい医療をより多くの患者さんへ

奈良県西和医療センター基本方針

1. 西和地域における重症急性期を担う基幹病院を目指し、公立病院としての役割を果たします。
2. 患者さんおよび地域社会に満足いただける病院を目指します。
3. 将来の医療を担う「心と技」を兼ね備えた医療人を育成します。
4. 職員が働きがいを感じ、満足できる病院を目指します。

研修理念

1. 救急医療と総合診療を中心に幅広い疾患に対応でき、生涯にわたり自己研鑽する医師の養成（総合診療能力と自らを高める姿勢）
2. 患者や家族の社会的背景に配慮し、高い倫理観を持って患者に尽くすことができる医師の養成（利他的な態度と人間性の尊重）
3. 医療チームの一員として他の診療科や他職種のスタッフと適切な協力関係を築くことができる医師の養成（チーム医療と人間性の尊重）
4. 公的医療機関の一員として、いかなる時も地域社会に貢献する責任感を有する医師の養成（社会的使命と公衆衛生への寄与）

プログラムの特徴

1. 医師だけではなく、院内のすべてのスタッフがみんなで臨床研修医を育てる環境を整えている。
2. 内科系・外科系を問わず圧倒的な救急診療を経験する。
3. 少数精鋭主義（各学年10名のため、同じ診療科に1～3名までのローテーション）のため、研修医ひとりあたりの経験が豊富である。
4. 集学的循環器病治療センターを有しており、循環器系疾患や脳神経疾患などの高度医療（手術や血管内治療）が充実している。
5. 中央内視鏡部門が強化されており、内視鏡を用いた高度な治療を含む消化器疾患の症例数が多い。整形外科、脳神経外科、外科・消化器外科、心臓血管外科では、高度で多彩な研修が可能である。
6. 指導医だけでなく、院内・院外のエキスパートによるレクチャーやケースカンファレンスなど2年間を通した全体学習に力を入れている。
7. 地域医療研修として、奈良県内のへき地医療、緩和医療、保健所での行政などを体験できるほか、神奈川県での地域医療研修も選択できる。
8. 2年目のプログラムは3年目に選択する専門医コース等の進路に合わせた様々なプランの作成が可能で、奈良医大附属病院や奈良県総合医療センターから選択できる。



奈良県西和医療センター臨床研修の実際

奈良県西和医療センター臨床研修プログラム責任者の森本勝彦です。当院臨床研修のパンフレットをご覧ください、誠にありがとうございます。

奈良県西和医療センターの臨床研修では、日進月歩で変化する臨床現場の最前線で適切な医療技術と知識を身につけるのみならず、患者さんに提供する医療への責任感と思いやりの心を育てることを大切に、医療者としてのプロフェッショナリズムを生涯にわたり研鑽する医師を育てることを目標としています。

1) 研修医ひとりひとりの希望に合わせたプログラム作成

当センターでは、common diseases や救急診療などの地域に密着した基本診療から先端医療まで幅広い研修を用意しています。初期研修 1 年次では 24 週間以上の内科研修に加え、外来診療研修、麻酔科を含めた救急医療研修、さらに一般外科や小児科、産婦人科などの必修診療科を研修します。これら必修診療科の研修ローテーションは予め決められたプログラムを履修するのではなく、研修医全員で相談しローテーションを決定します。この時期は、医療現場で患者さんの支えになるための『医療技術と医師としての心構え』を形成する期間であると同時に、ひとりの社会人として大きく成長する期間でもあります。上級医・指導医だけでなく、看護師や技師、薬剤師、医療事務の方々などすべてのスタッフから、医療業務・医療技術の指導と社会人としての教育を受けていただきます。

2 年次の研修プログラムでは、精神科や地域医療研修など残りの必修診療科を修了するとともに、各研修医の自主性を尊重し、将来を見据えた研修プログラムを自由に計画していただきます。当院の様々な診療科だけでなく、「奈良県総合医療センター」「奈良県立医科大学附属病院」「国保中央病院」「大阪堺明館病院」のすべての診療科および「信貴山病院精神科」「上野病院精神科」「奈良県郡山保健所」から、一定の期間自由に選択することが可能です。また、地域医療研修では、へき地医療を学ぶことができる「南奈良総合医療センター」、地域医療と総合診療教育で有名な北和也先生の「やわらぎクリニック」、回復期医療を学ぶことができる「奈良県総合リハビリテーションセンター」、および神奈川県で地域医療プログラムに定評のある、地域巡回診療を行う「三浦立病院」(三浦半島の最南端にある漁業の町)から選択することができます。2 年次のプログラムは、1 年次終了時点で調整し、適宜希望に合わせて追加調整しますので、臨床研修医支援室でプログラム責任者や指導医と話し合っ、各人の将来に合わせた研修を行うことができます。

そのほか、2 年間の研修において、様々な資格の取得や、各種医学会への参加・発表、論文作成発表も積極的に行っていただきます。こうした研修活動はすべてポートフォリオとして記録に残し、研修医がいつでも閲覧できるよう保管しています。

2) 豊富な症例数の経験と様々な日常臨床基本手技の習得が可能

当センターでは、幅広い経験を積むことができるように救急・総合診療能力を身につける研修を行っており、症候から診断に至るまでの論理的な思考過程をたどる臨床推論能力をつけることを重要視しています。初診外来での診療や walk-in の救急症例の診療だけでなく、年間約 4000 台の救急車搬送(二次救急)への初期対応を行い(研修医ひとりあたり年間 500 ～ 600 症例、2020 ～ 2022 年度実績に基づくデータ)、そのすべてに上級医の指導を受けます。当直では、内科系、外科系、小児科当直の指導医のもと、救急外来に来院されるすべての患者さんの診療に当たります。圧倒的な数の救急疾患を経験することで、重症例の初療や、病棟での急変時にも適切に対応できる技量を身につけることができます。また、上級医の丁寧な指導とフィードバックのもと、様々な診療基本手技を施行することができます。麻酔科での研修においては、研修医 1 人あたり 50 ～ 100 例の気管挿管を含めた麻酔導入症例を指導医立会いのもとに経験します。診

療手技の経験数は研修病院としては圧倒的に多く、どのような患者さんにも対応できる技術を身につけることができます。

3) 日々の学習を深めるための教育体制

研修医は2年間を通して、ほぼ毎日、勤務時間内に全体学習の時間をとっています。どの診療科で研修を受けていても、夕方には研修医室に戻って勉強します。研修医の一週間は、月曜日朝の、研修医による『研修医のためのモーニングカンファレンス』からスタートします。救急やプライマリケア診療にとっても重要なTIPSを、上級医の監修のもと、研修医が同僚研修医に向けてプレゼンテーションします。カンファレンスには、研修医だけでなく専攻医や指導医、診療部長も加わることがあります。発表する研修医にとっては、担当するテーマについて勉強して、さらに同僚や先輩医師に向けて発表するため、知識の習得だけでなくプレゼンテーション能力や司会進行といったファシリテーション能力を身につけ、成人教育法を体験し、インプット・アウトプット力の向上にもつながっています。

各診療科が研修医に対して行う勉強会には、消化器内科の『消化器疾患スキルアップセミナー』、放射線科の『画像の読影トレーニング講座』、循環器内科の『心電図判読トレーニング講座』を全研修医向けに定期開催しています。腎臓内科ではACP(米国内科学会)が発刊する問題集MKSAPを用い、臨床英語学習を兼ねた勉強会を行っています。感染症内科が主催する『感染症ケースカンファレンス』では感染症疾患の基本的な考え方、抗菌薬の使用法の考え方を学びます。一週間の締めは、中村孝人副院長が主催する『総合診療カンファレンス』です。豊富な総合診療の経験や多数の論文によるエビデンスを用い、症例を丁寧に省察することで臨床推論能力を高めます。

また、臨床研修で著名な医師を外部講師として定期的に招聘し、研修医向けに教育講座(多くはカンファレンス方式)を開いています。例えば、年4回当院と奈良県総合医療センターで共催する洛和会京都医学教育センターの酒見英太先生(NHK総合診療医ドクターGの元祖)による総合診療ケースカンファレンスでは、症状や身体所見から診断に至る臨床推論の考え方を磨きます。そのほか、NSTやICTラウンドといった多職種連携プログラムや、小児虐待対応プログラムBEAMS、生理機能検査技師によるエコーハンズオン実習、病院全体のイベントである死亡症例検討会や、病理医とともにカンファレンスを行う病理解剖検討会(CPC)も定期的に開催し、診療能力の向上と明日の医療の発展につなげています。これらの全体学習を通して、2年間、どのような診療科を選択しても、しっかりした臨床的思考が身につくように研修プログラムを作成しています。

こうしたプログラムは、年に1-2回ほど研修医にアンケートを取り、研修医のニーズに合わせてよりよい教育体制になるように改訂を行います。不評なプログラムに対して改善の見込みがない場合は中止したり、目的に合ったプログラムを研修医とともに創造することで、日々新しい研修に進化するよう取り組んでいます。そして指導医も教育能力を高め、最適な教育を研修医に提供できるように、病院全体として Faculty Development 活動にも力を入れています。

4) 充実した基本手技のシミュレーショントレーニング

日常診療基本手技の習得は、診療現場だけで身につけるわけではありません。繊細な手技を確実に習得し患者さんに安心して施行するためには、指導医の手技を繰り返して観察することと、事前のシミュレーション訓練が重要です。当院では臨床研修トレーニング室でシミュレータを使用した気管挿管、中心静脈カテーテルの挿入、腰椎穿刺などの訓練を行い、指導医の手技を繰り返し見学したのちに、指導医の補助のもとで手技を行います。研修医数に対して日常基本手技の経験回数が圧倒的に多い現場ですので、2年間で

ほとんどの手技を自信持って習得することができます。さらに、毎年7月に行う、神奈川県で行われるクリニカルシミュレーション夏合宿では、様々な場面での診断・処置・治療の進め方やチーム医療を体験学習し、基本手技のシミュレーション学習に加え、日本救急医学会認定ICLSコースによる心肺蘇生法の習得や、普段は経験困難な外科的気道確保(輪状甲状靱帯切開)など特殊手技の実習も行います。3日間の合宿では技術習得だけでなく参加者同士が大変仲良くなりますので、病院内でお互いの顔の見える、風通しの良い関係性をつくることができます。

5) 医のプロフェッショナリズムを生涯にわたり研鑽し続ける医師を育てる

当センター臨床研修の最大の目標は、医師としてのプロフェッショナリズムを生涯にわたり研鑽し続ける志を研修医に宿していただくことです。昨今の医療現場は、高齢化社会による医療受給の不一致、高度な情報化社会における医療トラブル、新型コロナウイルス感染症流行時に経験した献身的姿勢と人材不足、医師の働き方改革とそれに伴うジレンマ、医師の燃え尽き症候群など、研修医にとっても生涯を通して深く考察しなければならない問題がたくさんあります。そしてこの激動の時代においても、医師は高い倫理性と利他の心を保ち続ける必要があります。

当センターでは、研修現場において発生しうる様々なトラブルケースや倫理問題について研修医とディスカッションすることで、少しでも医のプロフェッショナリズムについて考える機会を持ち、コミュニケーション能力やレジリエンスの向上、職業倫理性の理解を深めるように取り組んでおります。これらは一朝一夕に身につけることはできないため、研修医のみなさんとともに、生涯をかけて探求していきたいと考えています(研修修了後も一緒に勉強し続けましょう！よろしくお願いいたします)。

6) 専門医を目指す 3 年目以降の進路について

進路希望が決まっていれば、その希望に沿うように全力でサポートします。進路が決まらない場合や迷っている場合には、どこでどのような専門研修を行うことができるか、日本全国を視野に入れて相談に応じます。各大学の医局に所属する従来の方法以外に、奈良県立病院機構に残って専攻医(専門医コース)としての採用も可能です。また初期研修に関与した各種事務手続き(専門医申請書類など)が必要となった場合も、研修終了後何年経過していても全面的に協力します。研修を修了した先輩医師には、行政機関での勤務や海外の大学院に入学された方もおられます。医師としてどのような将来を志すとしても初期臨床研修からスムーズに移行できるように、様々なキャリアプランの相談に応じます。

7) まとめ

奈良県西和医療センターは、地域密着型の基幹病院(地域医療支援病院)であり、プライマリケアから重症救急医療まで様々な症例を経験できる診療体制をとっています。当センターでの研修の特徴は以下の通りです。

- ▲多彩な全体学習での Input と豊富な症例経験による Output を繰り返し行い、医療技術や医学知識を適切に身につけることができる。
- ▲医療技術や知識の習得だけでなく、コミュニケーション能力や臨床倫理、不測の事態にも対応できるレジリエンス・コンセプチュアルスキルを日々学び続け、医師としてのプロフェッショナリズムを生涯にわたり研鑽する医師を育てる。

▲プログラムを研修医と共に日々アップデートし、様々なニーズに合わせて最適かつ安心、信頼できる研修を創り続ける。

これを読んでいただいているみなさまが、奈良県西和医療センターでの研修を希望され、私たちと一緒に仕事をし、臨床現場で共に切磋琢磨する日々を心から待ち望んでいます。そして新研修医となったみなさまが、しっかりした臨床的思考のもと、思いやりの心と、人の命に対する責任感を持って目の前の患者さんのために全力をつくすことができる、魅力ある医師に成長するように、私たちが全力でサポートします。

奈良県西和医療センター 臨床研修プログラム責任者

森本 勝彦

卒後臨床研修評価機構（JCEP） 認定を受けました

卒後臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修内容の審査を受けました。

基幹型臨床研修病院は、第3者機関による臨床研修の内容、実態についての評価を受けることが推奨されています。当院では、臨床研修プログラムおよびその実態について 2017 年にNPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）の審査を受け、認定を受けています。

2021 年 12 月の訪問調査では、事前の書類審査及び調査当日に臨床研修に関わる記録の詳細について審査していただき、病院内での実際の研修を病棟や救急外来で実際に電子カルテの前で受け持ち患者さんに対する関わり方をプレゼンテーションしながら調査していただきました。

まる一日の調査を終えた最後の講評では、全国的に有名な医療機関の指導医であるサーベイヤーから「自分が研修医ならこの病院で研修したいと思う研修内容になっていて、実際の研修医も活発で生き生きしていました」という感想をいただきました。

準備は大変でしたが、審査を受けて初めて分かることもあり、今後も研修内容がもっともっと良くなるように、改善する努力を続けて行きます。

当日のサーベイヤーの審査の結果を踏まえて、JCEP事務局でさらに審査していただき、4年認定を頂くことができました。

2023 年 12 月に更新のための書面調査を受け、当センターの臨床研修プログラムはより良く改善するたの課題をもらいいつも高く評価していただき、再認定されました。



2027 年度募集 奈良県西和医療センター臨床研修プログラム

自由自在なローテ選択

※ローテは各研修医の希望に合わせて変更可能

募集予定人数 10 名

奈良県西和医療センターでは、研修医一人ひとりに合わせた週単位の最適なローテートを提供しています。厚生労働省が定める必修科目(内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、地域医療)は当然ローテートに組み込む必要がありますが、その他の選択科目と合わせて、いつどのタイミングでどの科をまわるのかについては研修医自身が自分で自由に決めることができます。

1つ制約があるとすれば、1年目の4月・5月の2ヶ月間は入職したばかりで医師業務について右も左も分からない状況ですので、その最初の2ヶ月間だけは内科をまわっていただきます。この最初の2ヶ月間の内科でカルテの書き方や診察の仕方など、医師業務の基礎を学びます。自分がまわるローテートは4月の入職時のオリエンテーションでプログラム責任者の森本先生と相談しながら決定します。

最初にローテートを決めたものの、色んな診療科を経験していく中で新たに興味を持った診療科がでてくるとも思います。そんなときは該当するローテート開始の2ヶ月前までに申し出ていただければ一度決めたローテートを後から組み替えて変更することも可能です(直前での急な変更は、変更先の診療科に負担がかかるので2ヶ月前には申し出てください)。

1年目 ローテート例

プログラム番号 : 0303584304 / プログラム責任者 : 森本勝彦 / 統括責任者 : 土肥直文

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科						救急科	麻酔科	外科	小児科	産婦人科	
【必修科目】内科 循環器内科／呼吸器内科／消化器内科／ 腎臓内科／総合内科から選択						【必修科目】外科 消化器外科／脳神経外科／心臓血管外科／ 泌尿器科／整形外科から選択					

【選択科目】 奈良県西和医療センター、奈良県総合医療センター、奈良県総合リハビリテーションセンター、県立医科大学附属病院、国保中央病院、信貴山病院ハートランドしづさん、上野病院、大阪明館病院の各病院で標榜されている全診療科及び郡山保健所(行政)から選択

2年目 ローテート例

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
精神科	地域医療	選択科目									
三浦市立病院／やわらぎクリニック／総合リハビリテーションセンター／南奈良総合医療センター											

※2年目は進路を見据えて診療科をまわったり、医局の見学等で忙しくなるので、1年目に必修科目をまわる人が多い。

ローテート実例1：内科系志望

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科				救急	外科	麻酔科		内科	選択科目	精神科	
2年目	内科	地域医療	選択科目	内科(外病院)	内科	小児科	産婦人科	選択科目		内科		

ローテート実例2：外科系志望

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科	外科			麻酔科	内科	救急	精神科	小児科	地域医療		
2年目	外科	選択科目	外科(外病院)	外科	産婦人科	内科	選択科目		外科			

ローテート実例3：マイナー科志望

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科			産婦人科	内科	救急	麻酔科	地域医療	小児科			
2年目	選択科目	外科	選択科目	精神科	選択科目(外病院)	内科		選択科目				

科目について

●必修科目

内 科:総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科から最低24週

(※救急外来における基礎研修を含む。)

麻 酔:救急救命に必要な基礎技術の習得

外 科: 初年度の4週間において外科的疾患の初期治療を習得する。

消化器外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、整形外科の中から選択。

小児科:小児科に必要な基礎技術の習得

産婦人科:産婦人科に必要な基礎技術の習得

精神科:精神科に必要な基礎技術の習得

救 急:救急科における重症患者を中心とした救命医療の修練

奈良県総合医療センターまたは県立医科大学附属病院の救命救急センターでの研修も選択可能

地域医療:へき地医療、中小病院又は在宅医療実施診療所での外来診療を中心とした研修。

三浦市立病院(神奈川県三浦市)、やわらぎクリニック(在宅医療実施診療所)

奈良県総合リハビリテーションセンター、南奈良総合医療センター

※地域医療研修は2年目の選択期間中に行う

全診療科: ☐ 奈良県西和医療センター

☐ 奈良県総合医療センター

☐ 奈良県立医科大学附属病院

☐ 南奈良総合医療センター

☐ 大阪暁明館病院

精神科: ☐ ハートランドしぎさん(信貴山病院)

☐ 奈良県立医科大学附属病院

☐ 上野病院

地域医療: ☐ 三浦市立病院

☐ やわらぎクリニック

☐ 奈良県総合リハビリテーションセンター

☐ 南奈良総合医療センター

行 政: ☐ 郡山保健所

●選択科目

奈良県西和医療センター、奈良県総合医療センター、奈良県総合リハビリテーションセンター、奈良県立医科大学附属病院、国保中央病院、南奈良総合医療センター、やわらぎクリニック、大阪暁明館病院の各病院、および郡山保健所に設置されている診療科すべて

